

# 「こんなん しています。」

わだいのこじん

— 108 —

## 旧紀和町和田

日本で唯一の飛び地の村、北山村は和歌山県なのに和歌山県に接さず、奈良県と三重県に接しています。北山村と三重県熊野市の県境は蛇行する北山川であり、対岸の村は川を越えて助け合いながら仕事や教育を行ってきました。

紀伊半島の村々を訪ねる廃校調査を続けています。2015年には和歌山大学の中島敦司先生との共著で『熊野の廃校』を出版。和歌山県内と奈良県、三重県の一部を含め廃校踏査数は2200

を超えました。現役小中学校数の約6倍です。現役校はそれだけのルーツ校を持っているのです。

北山村の南端にある小松地区と三重県の旧紀和町和田地区は、北山川を挟んで向かい合っています。集落間の距離は約1kmという近さ。小松地区は東西南の3面を北山川で囲まれ北方は山に連なるという地形のため、田畑は対岸の三重県の方に持ち耕作に通っていました。明治時代に両地区は共同で小松に学校を設立。名称を双方の頭文字から小和小学校と称し、和田地区の子どもは対岸

# 廃村リノベーション

の小松に通ってしました。

学校の設立場所は、集落間のプライドをかけた争いになり各地域で「もめ事」の記録が多く残っています。和田地区が属していた西山村でも小松からの分離独立問題が起こり、大正11年、和田地区は無認可のまま集落内に学校を新築し授業を開始。その後ようやく認可され正式に開校に至りました。

## 山奥の宝

「我が村の学校」を無認可のまま建設してしまつた和田地区とはどんな所でしょうか。和田の集落は、今は住む人もなく北山川沿いの山の斜面の杉林に埋もれていました。

数百戸の範囲に形成された小集落で、林業や北山川での材木の筏流しを主な生業としていたよう

です。杉林の中には廃屋が数カ所、風呂桶や茶碗など生活の痕跡が残されており、学校跡は集落の一段と高い場所に発見できました。幅広い石段を持つ立派な石積みの上に平地が残り、「和田小学校跡地」の石碑がありました。



和田小学校跡地

和田は山の斜面の小集落ですが、見事な石垣や石段を見ると、先人の「村づくり」「学校づくり」への強い意識がわかります。山を切り拓き、石と土との格闘の結果が、頑丈な構築物として幾多の災害にも負けず残ってきたのです。

和田小学校は、児童数減少のため昭和39年に廃校。廃校からまもなく集落も閉じたようです。高度経済成長期が始まって

いました。現在、全国的に空き家問題となっており、有効活用のためのリノベーションが話題となつています。しかし、人口が減っているのに新築住宅が建設され続けているという矛盾の中なかなか進みません。家も、住宅開発のために崩された山や田も、結果的に使い捨てをしながら、高度経済成長を経た50年は曲がり角

集落跡



にきています。

半世紀の間、先人の汗と知恵の結晶である堅牢な村の礎は沈黙のままに杉林の中に残されました。その石垣と拓いた平地はまだ使える、このまま土に埋もれさせるには惜しい山奥の「宝」です。人が捨ててもなおしぶとい生命力を放つ、土地に根ざした暮らしの痕跡。このたくましい村づくりの遺産を現在に活かして再建する、廃村リノベーションにも目を向けることはできないものでしょうか。

湯崎真梨子(ゆざき まりこ)

和歌山大学産学連携・研究支援センター 教授

専門は、農村社会学、地域再生学。自らが研究するだけでなく、地域と大学が共に成長するプロジェクト研究をコーディネートしている。



プロ  
フィル